狐の姐さん

宮本百合子

青空文庫

七月○日　火曜日

散歩。

Ｆ子洗髪を肩に垂らしたまま出た。水瓜畑の間を通っていると、田舎の男の児、

狐の姐さん！　化け姐さん！

と囃した。

七月○日　水曜日

三時過から仕度をし、Ｔ・Ｐ・Ｗ倶楽部の集りに出かけた。Ａ新聞の竹中さんとＰ夫人の肝煎り。七八人。Ｐ夫人は日本に十六年もいる。劇評家。Ｎさんも見える。Ｐ夫人能もすきで屡々見るらしい。芝居は相当よく分り、花道の効果、または能の表徴的な美も理解しているらしいが、日本語がちっとも読めず、読まねばならぬとも感じていないらしい。それで日本の文学は云々出来ず。

Ｔ・Ｏ夫人、山梔（くちなし）のボタン・フラワ。白駝鳥の飾羽毛つきの帽。飽くまで英国――一九〇〇年代――中流人だ。識ろうとする欲求によってではなく、社交上の情勢によって、顔役として坐っていた。

○アングロサクソン人の、ロシア及ドイツに対する無智な偏見。

○イギリスとアメリカの短篇小説の違い、主としてテクニック上より。

東京会館で夕飯。お濠の景色。日本風なすき焼部屋。ミスが、面白い変化物語と、アナトール・フランス風の話をした。変化物語、なかなか日本の土俗史的考証が細かで、一寸秋成じみた着想もあり、面白かった。

九時過Nさんと自動車で、自分林町へ廻る。離れにKと寝る。いろいろ話し、若い男がひとの妻君に対する心持など、感ずるところが多かった。

――自分の妻君にされちゃ厭だと思うことは、ひとの奥さんにも仕ないのが本当だろう――

幾分警告的な意味で云ったが、嫉妬ということが、不図これまでの心持と違った角度から感じられた。「人間には嫉妬の本能がある」いつからか一般人の知識にこんな文句が入り込んで、その固定観念で自縄自縛に陥っている、そんな気がした。所有欲は本能だというのも同じだ。

七月○日　月曜日

暑し。

Yの発起で芝浦のお台場を見物に行く。芝浦から日覆いをかけた発動和船。海上にポツリと浮いたお台場、青草、太陽に照っている休息所の小さなテント。此方ではカフェー・パリスと赤旗がひらひらしている。市民の遊覧、ルウソーの絵の感じであった。陽気で愛らし。

溺死人の黒い頭、肩。人間の沢山いる桟橋の方へ、何か魂の引力みたいなもので漂って来ま

いかといいようなくこわかった。その傍を通り過た漁船、裸の漁師の踏張った片脚、愕きでピリリとしたのを遠目に見た。自分、段々段々その死んで漂って行った若い男が哀れになり、太陽が海を温めているから、赤い小旗は活溌にひらひらしているから、猶々切ない心持であった。夜こわく悲しく、Yに確(しっか)り体を捉えて貰ってやっと寝た。

〔一九二七年九月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集　第十七巻」新日本出版社
　1981（昭和56）年3月20日初版発行
　1986（昭和61）年3月20日第4刷発行
底本の親本：「宮本百合子全集　第十五巻」河出書房
　1953（昭和28）年1月発行
初出：「新潮」
　1927（昭和2）年9月号
入力：柴田卓治
校正：磐余彦
2003年9月15日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

狐の姐さん

宮本百合子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/